

日 時 令和7年10月2日（月）14：30-16：00

場 所 栃木県立馬頭高等学校会議室

1 開会【田中主幹教諭】

2 会長あいさつ【若園会長】

- ・大学生約50人が那珂川町へ訪問。取り組みや町づくり等について学んだ。
- ・子供たちを育てられる町や高校にしていけたら良い。

3 校長あいさつ【菊地校長】

- ・3年生の就職試験が9月16日より開始、順調に進行している。
- ・全学年が落ち着いて学校生活を行っている。
- ・レスリング部。3年生が8月に全国大会出場（3回連続）。
- ・6月に大阪万博の栃木県ブースにて、水産クラブ会長の生徒が英語で馬頭高校の紹介（オンライン）。
- ・商業の授業では知識や技能を活かして情報処理やワープロの資格取得に多くの生徒がチャレンジ。
- ・農業の授業では大型ドローンの操作実習を民間の方と連携して行う。下野新聞掲載。
- ・11月6日には那珂川町議員と生徒との意見交換の場を設定。
- ・今後地域から期待される、地域と連携した学校づくりを目指していきたい。

4 議事【進行：若園会長】

（1）学校より報告

① 令和7年度一日体験学習について

小山教務主任

- ：資料1説明。訂正：4（2）地域別参加生徒人数 令和7年度「56」→「55」
- 過去2年と比べると参加者減少。特に那珂川町や那須烏山市からの参加者で減少がみられる。アンケート結果については分析・考察の通り。

久保委員

- ：一日体験学習の実施日は他の高校と被らないように設定されているのか。

小山教務主任

- ：本校を希望する層の受検生に対しては他校と重複しないように計画している。

五月女委員

- ：地元の中学校の生徒数が大幅減少しており、それが馬頭高校の希望者減少の原因として大きいと考えられる。

若園会長

- ：アンケート結果について、保護者の情報源が「学校の先生から」が多いということは、中学校で情報提供を保護者の方に積極的に行っているのか。

関委員

- ：地元の学校なので情報提供を行っている。

若園会長

- ：普通科見学した生徒は学校ホームページをあまり見ていない感じ。いかに大人たちにアピールするかが大事。親戚や親、兄弟にいかにアプローチしていくか。

菊地校長

- ：那珂川町の協力が非常に手厚い。町の広報誌でも学校の取り組みを紹介され、町民の皆様

に知っていただき感謝している。我々も中学校を回って情報交換を継続している。今後プラスアルファでさらにしていきたい

若園会長

：色々やり方はありそう。那珂川町に引き続きご協力お願いしたい。

薄井委員

：那珂川町社会福祉協議会では広報誌を各校に配付しているが、伝える方法を新たに考えていかないと伝わっていかないのではないかと悩んでいる。

若園会長

：デジタルメディアの活用も主流になってきているので、色々な手段を使っての広報や周知をやっていかねばならない。乗り遅れてしまうと他に取り残られてしまう。

② 令和7年度インターンシップ実施状況について

田中主幹教諭

：資料2説明。

普通科は今後11月11日（火）～14日（金）の4日間で実施予定。水産科は既に7月7日（月）～11日（金）の5日間で実施済み。水産科については水産系で学びが活きる職場を原則としている。インターンシップが水産科から始まったものであり、その関係から毎年7月に実施をしている。普通科は馬頭中学校と小川中学校の職場体験学習と日程が被ってご迷惑をおかけしている。現在事前指導を実施して各企業とのやり取りを進めている。7月では暑さの問題があり学校行事を避けて11月に移行した。また、報告書等をまとめて広く知らせていきたい。

関委員

：中学校と時期が一緒になってしまったとのことだが、中学校側としては高校生と一緒にということで良い体験である。事業所が大変でなければ問題ない。

五月女委員

：那珂川町と那須烏山市以外の市町村の受け入れ先はどのように開拓しているのか。

田中主幹教諭

：本人が通える範囲というところを前提に、既に実績のある事業所を中心に進めている。新しい事業所を開拓する際には担任等で本人の希望を確認しながら事業所に打診をして実施。

若園会長

：生徒がどこへ行くかという希望は何か所までとるのか。

田中主幹教諭

：基本的には第一希望をとり、場所というより業種をみてその業種の中で打診する。何か所か打診してどうしてもダメである場合、本人との話の上で希望から離れた職場を通える範囲内で探していくことになる。

③ 令和7年度の進路状況について

藤田進路指導部長

：資料3説明。10月2日（木）現在で進学希望者が合計12名から11名に、就職希望者が35名から36名へ変更。進学希望者11名に対して、就職希望者36名（76%）と過去最大。今年度の就職活動は24名受験、20名内定、4名が不採用（内定率83%）。不採用だった生徒についてはすべての事業所で倍率が1倍を超えている。本校は他校と比べるとロングホームルームや総合的な探究の時間に進路、特にキャリア教育に特化した行事を多く入れている。11月以降、1、2年生について外部業者を交えて学校外へ出るイベントを含めて進路意識を高める行事を例年設けている。

吉田委員

：公務員を希望している生徒はいるか。

藤田進路指導部長

：今年度は3名が受験予定（那珂川町役場と栃木県警志望の併願が1名、陸上自衛隊志望が2名）。昨年度は自衛隊が2名、那珂川町役場受験（不採用につき現在非常勤で雇用中）が1名。

若園会長

：資料6ページの表において公務員はどこに分類されているのか。

藤田進路指導部長

：役場は「事務的職業」として、自衛隊は「警備・保安の職業」に分類されている。本校スクールミッションに基づき、進路指導部としてはなるべく地元企業を斡旋したい。校内企業説明会を毎年行っており、卒業生が就職した場所を中心として地元企業を優先して呼んでいる。公開対象については那珂川町・那須烏山市・さくら市の事業所について、高卒求人を出している箇所は無条件で全て公開している。高校生の就職活動に関するアプリケーションに、求人票の情報が生徒のスマートフォンに届く便利なものがある。ただし、企業に情報掲載料の負担がかかるので、すべての企業が加入しているわけではなく、本校としては取り入れていない。その代わりハローワークの高卒対象の求人票の公開をしている。本校生徒の特徴として給料や休暇で企業を選ぶ傾向は少ない。今年の3年生においても、職場見学や直接会った企業の方との接点を通して企業を選ぶ傾向がある。もっとマッチングが上手くいくような関わり合いができれば良いと考えている。

若園会長

：インターンシップと受験企業・就職企業との関連性はどうか。

田中主幹教諭

：求人を出さない事業所もあるため、一部の企業で就職する程度に留まる。逆にインターンシップを通じて事業所から生徒をぜひ欲しいといった意見も過去には何度もあった。

久保委員

：那珂川町商工会の方に求人のアプローチはしているのか。

藤田進路指導部長

：学校としてはハローワークの高卒求人を斡旋対象としている。こちらから商工会への働きかけはしていない。

久保委員

：企業によっては人材が欲しいため、情報が伝われば採用したいという企業があるかもしれない。何かしらの接点があれば地元の商工会としてお話をいただければと思っている。

藤田進路指導部長

：今年はその件について、今まで高卒採用をしたことなかったような企業も含めて様々な企業から電話で問い合わせが多かった。ハローワークに申請して求人票を出していただけるよう返答した。

五月女委員

：水産科の生徒が自分たちの学習を生かして就職したというケースはどの程度か。

藤田進路指導部長

：年による。今年度の3年生は例年と比べて水産業に就職したい生徒の割合が高く、半数近くの生徒が志望している。今年度および昨年度は進学に関して水産関係が少数であったが、一昨年度の3年生では進学を含めて水産・海洋系の進路を選択した生徒が多かった。

若園会長

：福祉関係は何か資格等の指導等あるのか

藤田進路指導部長

：社会福祉法人で求人において就職時に何らかの資格を必要としている事業所はほぼない。
ここ数年でその比率はかなり低くなった。今年度の「福祉・介護の職業」を志望した3名は全員同じ企業に就職が決定した。働きながら必要な資格を取る形となる。

④ 学校の様子

田中主幹教諭

：資料4説明。

⑤ 第1回（前回）学校運営協議会議事録

田中主幹教諭

：資料5説明。

資料6説明。前回の学校運営協議会で出た課題「SNSを利用した学校の情報発信について」

若園会長

：2「他校の様子」の「（2）活用状況について」は何校くらいあるのか。

田中主幹教諭

：県立高校においては1校しかない。特別支援学校等は頻繁に行っている。

益子委員

：茨城県立海洋高校はInstagramにて学校行事や実習を紹介している。

田中主幹教諭

：茨城県はSNS先進県。多くの学校で抵抗なく取り組んでいる。

菊地校長

：写真や動画について栃木県では学校指定のデジカメやタブレット等を使用して撮影という形。今般、教員の不祥事の関係で、学校教育活動においてスマートフォンの持ち込みが禁止されている。

若園会長

：一部の不祥事によって、まじめに取り組んでいる先生方の有益な活動が制限されてしまうのは非常に残念で、もう少し柔軟に対応してもよいのではないか。

（2）グループ協議

<協議題案>

○那珂川町の地域活性化策と馬頭高校及び本校生ができること、学ぶべきこと

（那珂川町での起業について本校生が学ぶ、協働する取組等）

グループ協議1班

- ・ イベントボランティアに参加している生徒たちは生き生きとしている。地域との関わりの意味付けをもっと強くしていけば、地域・学校ともに輝きを増すのではないか。
- ・ 普通科のカリキュラムに農業科目がある。地元の産業における農業の比重は大きいので、農業関連の就職先も開拓してもよいのではないか。地元に関わる生徒が増える。
- ・ 那珂川学のあり方については、町を知る機会としてだけでなく、郷土愛の醸成に結び付けるとよいのではないか。
- ・ 町からの転出者が相当数いることが課題である。小・中・高の間に地元への郷土愛を育み、外に出ずとも、町の中で暮らしていく流れや、一度町を離れても再び地元に戻ってきたくなくなる気持ちが醸成できればと思っている。

グループ協議 2 班

- ・ 高校、特に馬頭高校を卒業して地元就職した生徒に対して、町がお祝い金を出すのはどうか。
- ・ SNS は学校を支援する各種団体が馬頭高校との交流事業について積極的に配信してくることも有効ではないか。例えば、小中高の協働などは非常に魅力的ではないか。
- ・ SNS については、他の団体の真似でもよいから、とにかくやってみることが肝心ではないか。トライしたうえで、改正していく。そのような姿勢が大切ではないか。
- ・ 中学校における説明会では、学び直しに関すること、体験的学習を推進していることやコミュニケーション育成活動等の馬頭高校の特性を PR すべきと思う。
- ・ 少子化が進む中で、町外から生徒を招かなければならない。呼ぶための工夫が必要。たとえば馬頭から茨城県へ進学する生徒もいる。路線バスがあることや林業という魅力的な学びを求めての越境であり、馬頭高校や町も知恵を絞っていくことが大切だ。
- ・ 町の地域学校協働本部にはたくさんの支援者がいる。声をかけていき、様々な支援を仰ぐことができるはずだ。

グループ協議 3 班

- ・ 生徒が高校生活の 3 年間で気にしないためのインフラ作りを町として進めていきたい。具体的には遠方から入学する生徒のための寮の完備。デマンド交通の拡大をする目標を立てている。新町長候補も公約に掲げている。
- ・ 目を引くようなアピール策を立てたい。「ナカスイ」とタイアップした看板を地元ではない（例えば宇都宮市内）などに立ててみるなど。宇大生が行っている社会教育実習と絡めても面白いと思う。
- ・ 地元企業の CSR 活動（社会貢献活動）に生徒が協働できる機会を商工会などに働きかけてみてはどうか。生徒が地元企業に目を向けるきっかけとなるのではないか。

意見の共有については割愛。

各班の議事録を集約して次回の運営協議会にて報告する予定。

5 その他

○学校運営協議会日程について

今年度の学校運営協議会は次回（第 3 回）を含めた全 3 回を予定。来年 1 月 20 日（火）に「馬頭高校地域連携活動発表会・地域おこし協力隊活動報告会」を実施。那珂川町と馬頭高校の共催。発表会後に小川的那珂川町あじさいホールで第 3 回学校運営協議会を実施予定。学校評価について、年末に案内予定。

6 閉会【田中主幹教諭】